

浅川扇状地遺跡群現地説明会資料

(財) 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1. はじめに

浅川扇状地遺跡群は、飯綱山を水源とする浅川によって形成された扇状地上に位置する遺跡群です。遺跡範囲の中には各時代の集落跡が何か所もみつかっています。弥生時代後期初頭の吉田高校グラウンド遺跡（「吉田式土器」の標式遺跡）、弥生時代中期や古墳後期の檀田（まゆみだ）遺跡、奈良～平安時代の桐原宮西（きりはらみやにし）遺跡など多数の遺跡が含まれています。当センターでは、県道高田若槻線建設に伴い、4 月から発掘調査を実施しております。本日の説明会では、古墳時代～平安時代の集落跡・中世の溝跡を公開し、そこから出土した、古墳時代～中世の出土品を展示します。

2. 調査の概要

所在地 : 長野市桐原

調査面積 : 3,600 m² (表面積)

調査期間 : 平成 23 年 4 月 14 日～11 月 30 日 (予定)

調査原因 : 県道高田若槻線建設に伴う発掘調査

今回の調査で発見されたもの :

遺構 古墳時代～平安時代 ; 竪穴住居跡 62 軒、土坑約 130 基
中 世 ; 溝跡 4 条、墓跡 3 基、土坑 2 基

遺物 古墳時代～平安時代 ; 土師器・須恵器・灰釉陶器・円面硯・帯金具・鉄鏃など
中 世 ; かわらけ・青磁・銭・人骨など



調査地周辺
の空撮写真

3. 説明会の見どころ

古墳時代～平安時代の集落跡

調査区からは、古墳時代（約 1600 年前）の竪穴住居跡 4 軒と平安時代（約 1100 年前）の竪穴住居跡 58 軒がみつかっています。特に平安時代の住居跡は、何軒も重なり合ってみつかっていて、長い間同じような場所に住居を建て替えて住んでいたことが分かりました。また、居住域は調査区外へも続いていて、この地に大規模な集落があったと思われます。



1 区 調査区全景

中世の溝跡

調査区の西寄りに、幅約 3m・深さ約 1.5m の南北に直線的に延びる中世（13 世紀ごろ）の溝跡がみつかっています。遺跡の東側には中世の武士の館であった「高野氏館跡（たかのしやかたあと）《桐原要害（きりはらようがい）》」があるため、その周囲に設けられた堀である可能性が考えられます。また、溝の途中には、幅 2m の土橋と思われる部分が確認されていて、屋敷地内への出入り口があったと考えられます。



中世の溝跡

土器に書かれた文字

遺跡からは、たくさんの土器が出土していますが、その中には墨で文字が書かれているものがみつかっています。はっきりと文字であることが分かるものや、絵か文字なのか判断に困るようなものもあります。また、竪穴住居跡からは円面硯（えんめんけん）と呼ばれる、須恵器の硯の破片もみつかっていて、集落内で文章を作成していたことが窺われます。



墨書が施された土器

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4
TEL (026) 293-5926 FAX (026) 293-8157
E-mail info@naganomaibun.or.jp

インターネット(最新の情報はこちらから)

長野県埋蔵文化財センター

検索

<http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>



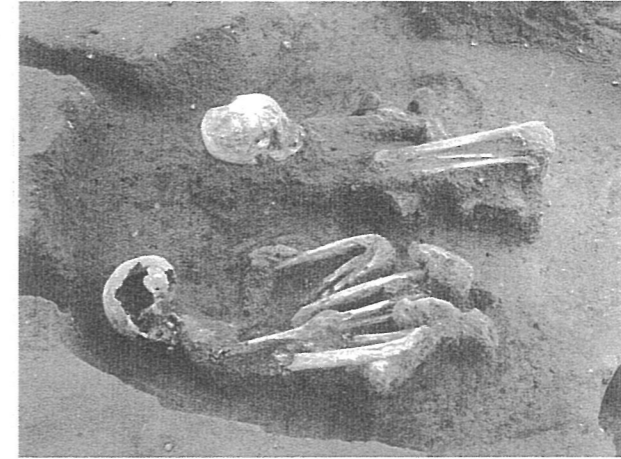
浅川扇状地遺跡群

遺構全体図

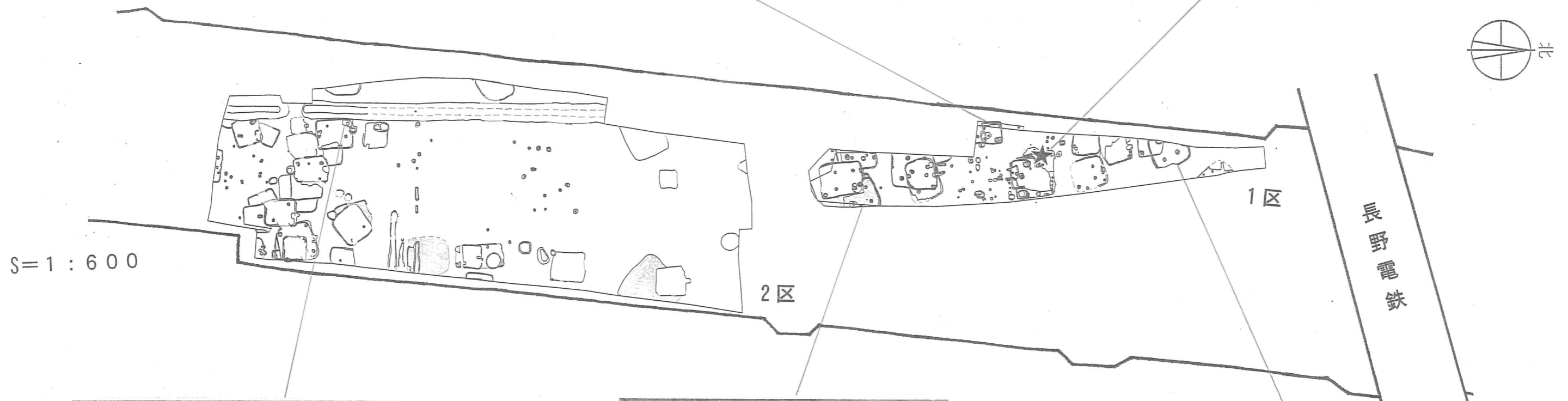
(2011.08. 26 現在)



カマド内、土器出土状況



人骨出土状況



カマド横の穴、土器出土状況



古墳時代の土器出土状況



平安時代の竪穴住居跡